

令和5年度版

児童・生徒数の推計について

茅ヶ崎市教育委員会

令和5年（2023年）5月

児童・生徒数の推計とは

過去5年間の未就学児童、児童及び生徒数を用いて、将来の市立小中学校に在学する児童・生徒数をコーホート変化率法により推計したもの。

本市では、毎年5月1日付けの未就学児童、児童・生徒数等を用いて、毎年度、推計の時点修正を行っている。

推計に用いた資料

資料	所管課	概要
未就学児童数	学務課	毎年5月1日時点の住民基本台帳に登録されている未就学児童（0～5歳）を学区ごとに整理
児童・生徒数	学務課	毎年5月1日時点の各学校の児童・生徒数
15～49歳女性人口	行政総務課	毎年5月1日時点の住民基本台帳上の15～49歳までの女性人口（※推計のため学区ごとに整理している）
学区	学務課	公立の小・中学校に就学する者の通学すべき学校を指定するため、教育委員会が設定している区域
小ゾーン	都市計画課	都市計画基礎調査で人口動向、土地利用、都市施設の整理率などを地域ごとに把握するため、市内を220区域（H27調査）に分け設定した区域。そのうち市街化区域は152に、市街化調整区域は68に分かれている。

※コーホート：同じ年（又は同じ期間）に生まれた人々の集団のこと。例えば、令和5年（2023年）4月2日～令和6年（2024年）年4月1日生まれは、同じコーホートである。令和12年（2029年）4月1日時点で満6歳となり、小学1年生となる人々の集団である。

留意点

1) 本市人口推計との相違点

毎年度、児童・生徒数を算出する必要があることから、本市が5年ごとに実施している人口推計とは、推計手法推計単位及び基礎データが異なる。相違点は次のとおりである。

統計資料	本推計	市人口推計（総合政策課）
手法	コーホート変化率法 過去における実績人口の動勢から「変化率」を求め、それに基づき将来人口を推計する方法。 近い将来を推計し、また近い過去に大きな人口変動がなく、また推計対象となる近い将来にも特殊な人口変動が予想されない場合に用いることが多い。	コーホート要因法 「自然増減」（出生と死亡）及び「純移動」（転出入）の2つの「人口変動要因」から、将来人口を推計する方法。 推計の基礎となる過去の実績人口に特殊な変動があったか、推計対象期間内の将来人口に特殊な変動が予想され、コーホート変化率法による将来人口の推計が適さないと思われる場合に用いる。
推計単位	市立小中学校の児童・生徒数を1年単位で推計	市人口を5年単位で推計
基礎データ	住民基本台帳、児童・生徒数	国勢調査（確報値）

2) 推計の性質

過去5年間の人口動態から、将来の児童・生徒数の変動傾向を把握するもので、正確な児童・生徒数を把握するものではない。したがって、推計値と実績値には誤差があり、一般的に中長期的なスパンで見るとその誤差は大きくなる傾向にある。また、学区単位の推計は、大規模な共同住宅などの建設により、児童・生徒数の変動傾向は過去の推計結果と大きく変わる。

推計結果の活用

本推計結果は、次に示す3点に活用する。

1) 普通教室の必要量や特別支援学級設置に向けた検討に活用

推計結果をもとに、普通教室の必要量を把握。特別支援学級が未整備の学校を対象に、同学級整備に向けた検討に活用。

2) 教育施設の再整備や学校規模の適正化に活用

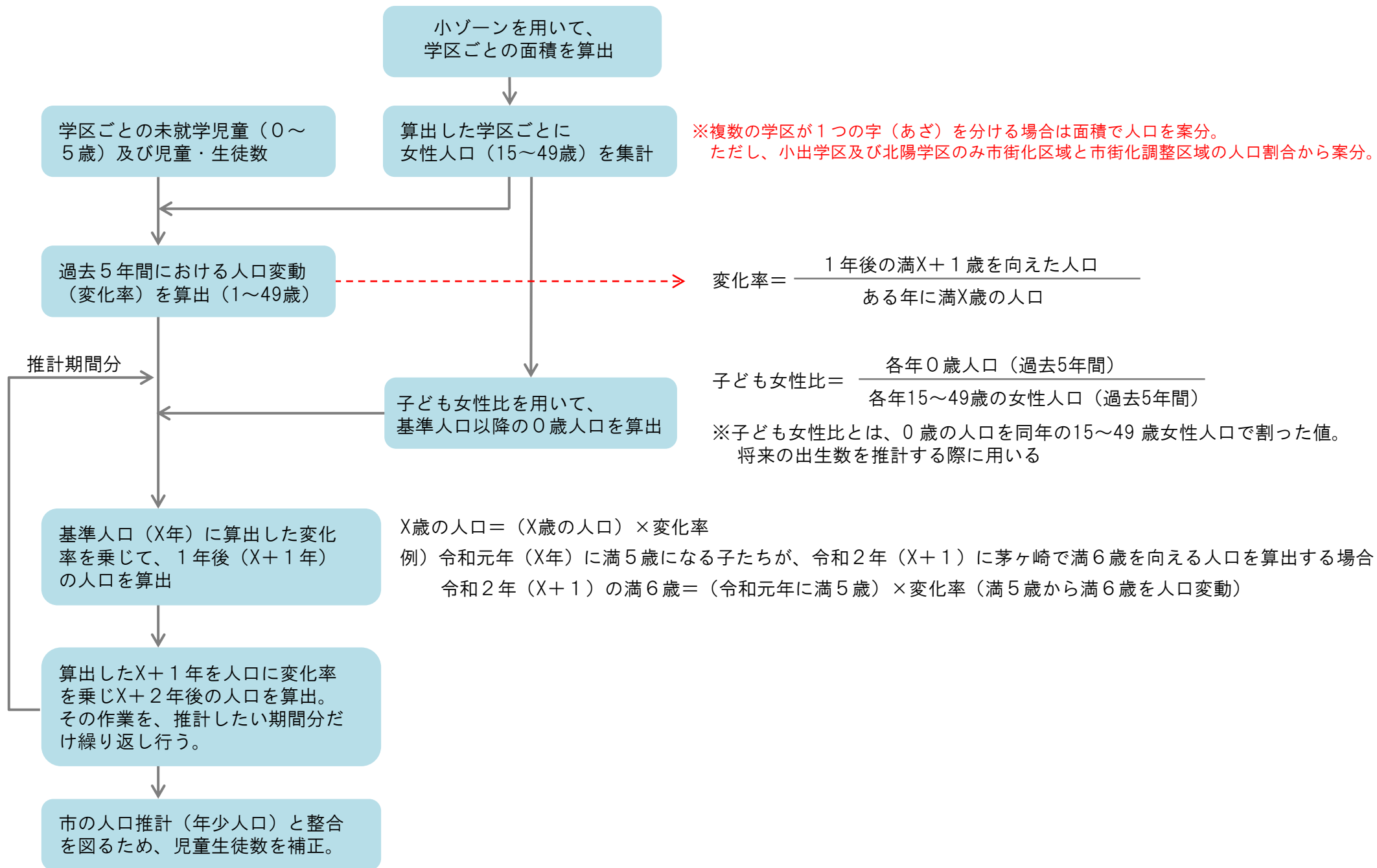
学校施設の長寿命化など学校施設の再整備等の検討に活用。

3) その他

児童クラブの設置など、関係各部所管の施策に活用。

1. 推計の流れ

推計の流れ



2. 全児童・生徒数 推計結果

令和5(2023)年度 推計結果

令和5年5月1日付けで行った児童・生徒数は次の表のとおりである。

児童数は、減少後2035年時点から概ね横ばい。生徒数は、2025年時点までは概ね横ばいに推移し、その後減少。10年後の令和15年時点で、令和5年より児童数は約1,900人、生徒数は約600人減少する。

